

令和8年3月16日

発 言 者	発 言 要 旨
青木委員	みちづくり調査事業費の渋滞対策に係る経費について繰越が生じる理由はどうか。
道路整備課長	国道287号の渋滞対策に係る経費を追加するものである。長井市内の国道287号に関する渋滞対策の検討に当たり、今年度は将来交通量の推計計算を行っている。シミュレーション計算に当たっては、現地調査や都市計画、道路ネットワークの見直しなど様々な条件整理が必要であるが、現地調査について追加調査及び再調査の必要が生じたため、作業に遅れが生じている。交通量の推計計算は年度内の完了を予定しているが、成果品のとりまとめが4月以降になるため繰越が生じるものである。事業全体への影響はない。
青木委員	梨郷道路の開通前後の交通量調査の結果はどうか。
道路整備課長	梨郷道路の開通後も交通量は減っておらず逆に若干増加している状況にあることから、渋滞対策が必要である。
小松(伸)委員	今冬の大雪に伴う除排雪に当たっては従事者の確保など、地域建設業の協力が不可欠となることから、受注者が地域の除排雪対策を優先的に行えるよう、発注工事の一時中止を認めるなど柔軟に対応するよう通知があったと聞いている。除雪等の雪対策業務を優先したことによる工期の延長はあったのか。
建設技術・DX 推進主幹	雪対策業務による工期延長の申請はなかった。
小松(伸)委員	災害復旧事業については全体の5割の箇所が工事未完了であり、地域住民からは不安の声が寄せられている。災害復旧事業において今冬の大雪により工事を中断し、年度内完了が不可となった事業はあるか。また、事故繰越の発生見込はどうか。
砂防・災害対策 課長	大雪の影響で年度内完了が困難になった箇所は最上・庄内地域を中心に数箇所ある。
管理課長	事故繰越が必要な事業は一定数あり、現在、関係機関と調整を進めている。金額については6月定例会での報告に向けて調整中である。繰越による平準化も考慮しているが、各事業ができるだけ早く完了するよう努めていく。
渋間委員	災害復旧事業で繰越金額が大きくなっているが、繰越発生の大雪以外の要因はどうか。
砂防・災害対策 課長	大雪以外の要因としては、工事の実施過程で工法の変更が必要になったこと、入札の不調・不落により工期がずれ込んだことが主な要因である。
渋間委員	不調・不落を防止するために県内全域での業者間の協力体制は整備されているのか。

発 言 者	発 言 要 旨
砂防・災害対策課長	<p>災害復旧による入札件数の増加に伴い、地域によっては地元業者だけでは全て対応できない事例も発生したため、建設業協会と協議の上、できるだけ業者の負担を軽減する形で発注できる体制を整備している。</p>
阿部(ひ)副委員長	<p>山形空港の予備発電設備更新工事の入札不調による影響はどうか。</p>
空港港湾課長	<p>工事の前段となる設計業務が入札不調により繰越となるものであり、工事には至っていない。工事の部分は今後予算を確保していくこととしており、全体の工程が遅れないようにスケジュールを管理していきたい。</p>